東京大學
文理法
學部記録
明治十一年
243

明治十二年一月ヨリ十二月マテ

東京大學法理文學部記録

文部省准允

開第十一号

客年中文學部設立相成候處該學部教授人少授業上差支候ニ付而ハ新ニ該學部中ニ政治學教授一名期限二ヶ年給料一ヶ月金三百圓ヨリ三百五拾圓迄之間ヲ以テ雇入申度此段相伺候尤右許可之上ハ速ニ英國ヨリ招雇致シ可申儀ニ付至急許可有之度候也

明治十一年一月十一日

東京大學三學部綜理 加藤弘之

文部大輔代理

文部少輔神田孝平殿

学第六十五号

申出之趣聞届候條招備結約之上條約書和詳文相添可届出候事
但貴用之儀ハ其学部金之内ヲ以支消可致事
明治十一年一月十六日 文部大輔田中不二麿之印

聞第三十一号

本部化学教授アトキンソン氏当定期試験之節自己受持ノ分ハ来ル五日迄ニ而相済候間六日ヨリ試験後休業之間ヲ以而製造化学ノ事ヲ実地ニ就キ目撃シ来リ生徒ヲ教授スル為メニ自費ヲ以テ西京大坂ヲ始メ山和摂河泉五ヶ国各地ヲ巡廻シ醸酒製醤其他化学上ニ属セシ諸製造法ヲ実見致シ度段願出候ニ付而ハ本人願之如ク旅行之儀聞届度候ニ付右至急許可有之度此段相伺候也

明治十一年一月廿九日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部大輔 田中不二麿殿

学第百五十号

再伸本文許可之上ハ旅行日限及道筋取調旅行免
状請取之儀可申出候也

伺之通
但出発帰着共可届出候事

明治十一年一月廿九日

乙第二号

豫備門第一級生土方寧ヨリ学資給与之儀願出
候趣ニヨリ該門主幹ヨリ別紙之通申出候ニ付
尚取調候處同人義ハ客年九月十二月両
度ニ給費差許候生徒ト共ニ願ニ因リテハ
給費可相成者ニ有之然ルニ其節ハ自費修業
致シ居候處追々窮迫即今ニ至リテハ迚モ
自費修業行届兼候處ヨリ願出候儀ニ而事
実無違無之且該門ニ於テモ申出之通学業成
達之目的有之者ニ付テハ客年中給費差許
候者ト同様学資給与致度此段相伺候条
至急裁可有之度候也

明治十一年二月九日　東京大学三学部綜理加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

伺之通

明治十一年二月十五日

文部大輔田中不二麿之印

山田鎮

右ハ去ル八年九月十日本部ヘ雇入レ以来二ケ年餘ノ間慶樹相勤格別勉励ノ者ニ付審査ノ般賞与ニ採用ニ成リ之候処右何年従来之勉励ヲ賞スル為メ補助金ニ内ヲ以テ金弐拾五円交付致度此段及御伺候也

但免職ニ無之者ハ右年当然ノ義ニ候得共[illegible]本年右年ノ満期之後満一ケ年者ニ於テ免職ニ付満年賜金交付ノ際本人ハ勤務之年数モ未満年ニ付[illegible]其段御申出置ニ付有之ツ条於本伺ノ儀ニ有之ソ也

東京大学法理文学部綜理 加藤弘之

明治十一年二月十四日

文部大輔田中不二麿殿

書面山田鐵三出願之儀ハ今般給因支與ヘ一円半 [illegible]

明治十一年二月十五日

文部大輔田中不二麿之印

甲第三號

客年中本部卒業ノ化学生三名ノ儀ハ
明治三年各藩ヨリ出セシ貢進生ニシテ本校
以還豫科ヲ履ミ本科ニ入リ委シク其課目ヲ脩
メ善ク其考試ヲ完フセシ者ニ有之且該生徒正則
ニ従事スルヤ明治七年法化工ノ三専門学科設置
ノ前ニ在リテハ教則未タ確定セサルカ故ニ未タ
一学年一級ヽアラサレハ進級セシノカルノ制ナキニ
因リ俊秀ノ者ハ臨時一二級ツヽ超遷スルヲ
得ヘキナリ以テ該生徒ノ如キモ入校以還毎ニ優等
ノ位置ヲ占メ時トシテハ一二級ヲ超進シ遂ニ最
上級ヘ昇登セシ者ニテ去七九両年ニ海外ニ
派遣セシ生徒ハ始終其級ヲ全フシ其学力

第二百九十三号

ニ至リテモ常ニ伯仲ノ間ニ在ル者ニ有之然ルニ當時海
外留學ノ選ニ當ラサル所以ハ派遣ノ人員ニ限アリ
且其際不幸ニシテ試驗ノ評点數僅ニ少キノ
故ヲ以テ其員ニ入ル能ハサリシト雖モ其平常
ノ學力ニ至テハ敢テ劣レルト云フニ非ラス且ツ
方今ニ至テハ前留學生ニ比スレハ本部ニ止リ
修業スルノ學期長キヲ以テ今之ヲ海外ニ留
學セシメハ彼國大學ニ於テモ必ス先ニ留學
セル者ト駢進シ互ニ相劣ラサルノ名譽ヲ得
ヘキハ疑ヲ容レサル所ニシテ固ヨリ前者ハ悉ク
其精良ニシテ該生徒三名ハ皆其糟粕ト云フ
可カラサル儀ニ有之候然リ而テ本部ノ教
制タルヤ豫科ヲ履ミ普通科ヲ修メシメ

而ノ本科ニ入リ一科専門ヲ卒ラシムルヲ以テ
本部ヲ卒業スル者ハ固ヨリ充分ノ教育ヲ受
ケタルモノニシテ一科専門ノ士タルヲ得ヘシト雖
モ奈何セン我國西學ヲ講スル日尚浅キヲ以テ一科
専門ノ碩學者其數多カラス且各般ノ學術
上實地ニ就テ見聞スヘキモノ少ナキヲ以テ海
外ニ在リ有名ノ大學校ニ入リ有名ノ碩學ニ
就キテ修學セシモノニ比スレハ其學力自然
劣ラサルヲ得ス故ニ一科専門ノ士ヲ育成シ
之ヲシテ直ニ外国人ニ代ラシメ以テ實地ノ
業ヲ執ラシメ或ハ大學ノ教授ヲ任セシメント
欲セハ今ヨリ數年間大學各學部ノ卒
業生中最モ優等ノ者ヲ精選シ年々

數名ツヽ海外ニ派遣シ以テ其學術ノ蘊奥
ヲ究メシメサル可カラサルハ論ヲ竢タサル儀
ニ有之但シ從前文部省ヨリ海外ニ派遣ノ生
徒ハ本部生徒中未タ卒業セサル者ヲ挙ケ
半途ニシテ之ヲ留學セシムルヲ以テ其學ノ
年限五ヶ年ト定ルト雖モ今後卒業生ヲ
派遣セハ其年限兩三年ト定ムルモ一科専門
ノ業ハ充分ニ研究シ来ル可ク存候故ニ先ツ
當年ノ卒業生中ヨリ優秀ノ者一二名ヲ選
挙シ速ニ英國ニ留學セシメラレ度此レ啻
ニ本部生徒ノ為ノミナラス國家教育ノ為ノ
切ニ冀望スル所ニ候且夫レ先ニ未タ卒業
セサルモノヲ挙ケ半途ニシテ之ヲ留學セシメ

今ハ已ニ卒業セル者ヲ措テ派遣セシメサルハ
理ニ於テモ正當ヲ得サル事ト被存候本部
外國教授中ニモ往々此事ヲ論スルモノ
有之先キニ文部省本校生徒ヲ海外ニ
派遣スルニ當リテモ皆不満ニシテ其挙
ヲ不可トシ文部省本校卒業ノ生徒中
優等ノ者ヲ挙ケテ更ニ海外ニ派遣シ尚其
學術ヲ研究セシムルハ日本教育ノ上進ヲ
図ルニ最モ緊要ニシテ期望スル所ナレトモ未タ
卒業セサル生徒ヲ挙ケテ海外ニ留學セシ
ムルハ最モ正當ヲ得サルナリト切論セシコトモ
有之且ツ今回モ教授ジヰーダル氏ヨリ別紙
ノ如ク申出至極尤ノ儀ト存候間甚書

相添ヘ申致候条前件之事情御洞察之
上可然御審裁有之度候也

明治十一年二月

東京大学三学部綜理　加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

書面之趣ハ即今詮議難被及候事

明治十一年二月十八日

文部大輔田中不二麿印

下第八号

本部用度掛及学籍掛ヨリ所蔵版馬
耳蘊氏記簿法並同氏複式記簿法御下
付之儀ニ付別紙之通願出候ニ付相叶事ニ
候ハヽ右二書共壹部ツヽ被下候様致度
此段上申候也

明治十一年二月十五日

東京大学三学部綜理　加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

報第九十五号

書面ノ趣難聞届候条此旨
可相達候事

明治十一年二月十九日

文部大輔田中不二麿之印

丁第十六号

別紙ノ通理学部助教古賀護太郎ヨリ入浴願差出候処事実不得止事ニ付許可有之度此段添書ヲ以テ申上候也

明治十一年二月廿日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

丙第三十五号

私儀
楼ノ質ニ而痔ニ罹リ甚敷難澁致居候
處別紙醫證ニ趣モ有之候ニ付摂津
有馬ニ入浴致度就テハ明廿一日ヨリ
向三週間御暇被下候様致度此段
相願候也

明治十一年二月廿日

理学部雇
古賀護太郎 印

文部大輔田中不二麿殿

付ノ趣ハ其部ニ於テ聞届ケ之
申稟可有之候事

明治十一年二月廿日

文部大輔田中不二麿之印

乙第七号

豫備門主幹服部一三ヘ該門第二級生
唐居清太郎ニ学資給付之儀ニ付別紙
ニ通リ申出候間尚本部ニ於テモ夫々取
調候處全ク主幹ヨリ申出ノ通事實
相違無之候仍テハ該門第二級生六十五人
大曾テ伺濟ノ如ク本年中ニ学資給付
スヘキ額定ノ人員ニモ有之候處現今該級
中既ニ給費生タルモノ五十九人有之候得
共猶残員モ有之儀ニ付同人モ右人員ニ
相加学資給付致シ度此段相伺候条
至急裁可有之度候也

学第三百八十号

東京大學三學部綜理
加藤弘之

明治十一年三月六日

文部大輔田中不二麿殿

伺之通

明治十一年三月八日

文部大輔田中不二麿之印

甲第十七号

理學部工學教授英國人チヤプリン氏儀工學第四年生ヲ率ヰ實地調査之義有之社後二日間ヲ以本月廿三日發足下總國松戸驛近傍罷越度段申出候處右ハ學術上之裨益有之義且翌廿四日ハ日曜休業ニモ候ニ付申出之通御聞届相成候様致度右至急許可有之度此段相伺候也

明治十一年三月十九日

東京大學三學部綜理加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

學第四百六十号

本件道路ハ千住ヨリ順路松戸ニ至リ歸路市川ヘ罷
越候旨本文之義許可相成候ニ付直ニ旅行免状外
務省ヨリ受取相渡有之度候也

付テ遊歩伺ノ通出發程歸着共可伺出ノ事
但旅行免状外務省ヨリ受領次第交付可及
候事

明治十一年二月二十日

（印）文部大輔田中不二麿

丁第二十八号

本部第五年報（明治九年九月ヨリ同十年八月ニ至ル）今般印行致
度且本部第二第三年報ハ既刻ニ付得其
第四年報ハ未刻ニ付是亦印刷致度此
段相伺候也

明治十一年三月十九日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

報第百八十四号

伺之通
但誤寫等ハ廉訂正可致事
明治十一年四月十五日

文部大輔
田中不二
麿之印

甲第二十六号

學第五百七十二号

理學部教授獨乙人ナウマン氏ニ助教和田維四郎ヲ隨行セシメ地質學第三年生徒二名ヲ率ヒ實地ニ就キ地質學ヲ教授候為メ本月十六日發足往復二週間ヲ以テ左記ノ場所ヘ旅行為致度候条右至急御裁可有之度候也

但右許可ニ於テハ出張免状外務省ヨリ御請取御渡有之度候也

明治十一年四月四日

東京大學三學部綜理 加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

旅行道筋

東京ヨリ中仙道通順路上州高崎ヘ到リ夫ヨリ同州甘楽郡
ヨリ武州秩父郡高麗郡甲州山梨郡ホヲ経歴シ夫ヨリ
武州多摩郡ニ出テ甲州街道ヲ帰京

申出之趣聞届候条出発帰着共
可届出候事
但旅行免状壱葉交付候条帰着候ハヽ
文部省ヘ返付可致候事

明治十一年四月六日

文部大輔 田中不二麿之印

丁第四十一号

植物採集ノ為メ来ル廿二日ヨリ往復一週間ヲ以
テ理学部教授矢田部良吉ヲ武州秩父郡ヘ派遣
致シ且小石川植物園雇松村任三儀ハ植木職
ニ者壱名召連是亦同日ヨリ往復向三週間ヲ以
テ同所ヘ派遣致シ度此段併テ相伺ヒ急裁
可有之度候也

明治十一年四月十九日

東京大学法理文学部綜理加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

付次五十九号

伺之通
明治十一年四月十九日

甲第七十五号

当予備門外国教師英人モンタギューフエントン氏来ル廿八日左ノ地方旅行致度旨申出候条右遊行免状御渡有之度此段相願候也

明治十一年四月廿四日

東京大学予備門主幹
服部一三

東京大学三学部綜理加藤弘之殿

英国人
モンタギュー、フエントン

学科研究

明治十一年四月廿八日下総国小金野ヘ相越同日午後八時比帰京

旅費之通申出候ニ付右ハ日曜休業ニ付有之度
旨許可有之様致度此段相伺候也

東京大学三学部綜理
加藤弘之

明治十一年四月廿四日

文部大輔田中不二麿殿

本件ハ文之儀許可之上ハ旅行免状可渡旨之答此段
係申牒ニ参照也

伺之趣聞届候条出発程歸着共可届出事
但旅行免状外務省ヨリ受領次第交付可及事

明治十一年四月廿五日

文部大輔田中不二麿之印

甲第十六号

当豫備門外國教師英人モンタギュー、フェントン氏来ル五月四日左ノ地ヘ旅行致度旨申出候条右遊行免状御渡有之度此段相願候也

明治十一年四月廿九日

東京大学豫備門主幹

服部一三

東京大学三学部綜理加藤弘之殿

追テ本紙同氏ヘ御渡ニ相成候ニ付紙免状ハ御返付有之度也[?]

学科研究

英國人

モンタギュー、フェントン

明治十一年五月四日ヨリ往復一ヶ月ヲ限リ下総國小金野ヘ相越同月今日午前第七時[?]

伺案

右書ニ通豫備門ヨリ生徒出發届五月五日ヨリ七日曜休日ニモ有之且ツ四日ハ授業畢リヨリ旅行出立為致度事ニ付許可有之様致度此段相伺候也

明治十一年四月廿九日

東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

再伸本文許可ニ於テハ旅行免状外務省ヨリ請取度候
右四ニ方序ニ付也

伺之趣聞届候條出發帰着共可届出事

但旅行免状外務省ヨリ受領ノ儀ハ文部省ヨリ可及候事

明治十一年四月三十日

文部大輔
田中不二麿之印

乙第十七号

来年度豫算表ノ儀ハ既ニ先般具状致置候事ニ候得共昨年学科課程ヲ改メ来費用頗ル増加スルニ際シ却テ政府ノ減額ニ遭遇致候事ナレハ支給ノ方法殆ト困却ニ弁スル豫算表面ノ額ナルモ迚モ引足不申見込有之去迄他ニ着手流用ノ方法モ無之ニ付無據従来金六円ヲ給与候生徒ヘ分壱円ヲ相減シ来ル七月ヨリ五円ヲ給与候事ニ改定致度左スレハ右減省ノ金額凡計大約金貳千ニ百五拾六円ニ相成リ其右ヲ以テ各般ノ不足金ニ充候ハヽ校費ヲ維持スルヲ得ヘリ存ル仍テ此段相伺候間至急許可有之度候也

学第七百四号

東京大学三学部綜理

加藤弘之

明治十一年五月四日

文部大輔田中不二麿殿

伺之通

明治十一年五月七日

七百五十五

乙第二十一号

当理学部附属金属分析所科業相増加ニ付別紙
図面中朱書之通リ増設致度ニ付入札為致ノ處
金百八拾円ニテ佐野吉次郎ヘ落札相成ニ付団
リ調査ノ處不都合之廉無之ニ付同人（石川県平民）
ヘ請負申付度仕様帳図面等相添此段相伺候条速ニ御許
可有之度候也

明治十一年五月七日　東京大学三学部綜理加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

書面伺之趣聞届候条本年度学本部補助金ヲ以支弁
可致候条此段申達候也

合第五百三十一（二号）

丁第七十三号

本部教員等屢吹上御苑拝観証票文部省ヘ儀願出ノ者有之ノ處其都度屬員ヲ以テ受取ノ事ニ而ハ煩冗ニ渉リ且拝観定日ニ迫リ願出ノ者モ有之候ノ處其折屬員中校用有之即時差出兼ノ場合モ有之ノミナラズ右教員等及其家族ニ而所用分トシテ預メ五百枚請取置候様致度此段上申候也

明治十一年五月十日　東京大学三学部綜理加藤弘之

文部大輔田中不二麿殿

丙第七十六号

本件本文証票請取置候上ハ右之首候人名及枚數ハ毎月末取調ノ届可申出事

伺之通

明治十一年五月十六日

伺之通
明治十一年五月十一日

元寄宿舎取締
中尾大一郎
右者明治八年九月十日雇入爾以来二ケ年有余
其間職務精々勉励厳正候者ニテ這回廃ニ因リ
解雇候ニ付テハ従来ノ勉励ヲ賞スル為メ補助
金ノ内ヲ以テ金三拾円交付致度此段相伺候也
明治十一年五月廿七日
東京大学法理文学部綜理
加藤弘之
文部卿西郷従道殿

伺之通

明治十一年六月五日

文部卿西郷従道之印

甲第五十四号

先般外國教授給料ノ儀自今雇継及新雇ニ際ハ通貨或ハ貿易銀ノ内ヲ以テ約定可致旨御達有之候處右ハ従来ノ約諾モ有之向モ有之候ニ付テハ甚タ困却致候ニ付右ハ精ニ談判ハ可遂候得共到底承諾不致向ハ本人本國ノ通貨ヲ以テ約定致シメ度ニ付右ヲ以テ其時ノ相場ニ應シ相渡シ候様致度候可然御指令有之度此段相伺候也

明治十一年六月四日　東京大学法理文三学部綜理加藤弘之

文部卿西郷従道殿

学第九百七十四号

本件本文之儀ハ現今教授中既ニ出部ニ於テモ
モ有之ニ付至急御指令有之様致度此段添述
ク也

伺之趣本人本国ニ通知貸シ以約定候儀ハ
不相成候条本年三月九日御内達之通可取
計候事

明治十一年六月二十日

第千七号

乙第二十九号

本部内外教員及生徒学術実試ニ為メ内地旅行
ノ節ハ内国教授ハ旅費定則ニ従ヒ旅費ヲ給ニ
外国教員ハ一日金五円ツヽ生徒ハ一日金
壱円ヲ給与致来候處右ニテハ多費ヲ要スル
ニナラス日数ヲ算シテ給スルカ故ニ旅ノ地ヘ
回リ旅費平常ナラス加之内外教員生徒共同行
ニ者二様ノ規則ニテ旅費ヲ給与スル事ニテ甚順
益同一ナラサル等ニ不都合モ有之ニ付以来以今
般本部限リ旅費定則ヲ設ケ実地試験ニ為メ旅
行ニ者ニハ総テ此定則ニ従ヒ支給ニ相換致度
段御伺ニ及ビ且夏期旅行ニモ差迫居リニ付早急裁可
有之度候也

今第七百十五号

明治十一年六月十三日

東京大学三学部綜理　加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

明治十一年六月二十五日　西

丁第九十七号

本部一覧従来曾テ
天覧ニ供シ候儀無之候処自今ハ
聖上両　皇后宮ヘ一部ツヽ献呈候様致度右部
合如何可有之哉此段相伺候也

明治十一年六月六日

東京大学三学部綜理　加藤弘之

文部卿西郷従道殿

学第九百十七号

書面其学部一覧ハ文部省ヨリ直ニ宮内省正
可差出且大臣参議正ニ各壹部可贈付候
該冊取揃可差出候事

明治十一年六月十一日

甲第五十六号

英國人　グリグスビー
法学教授
明治七年五月六日ヨリ雇入本年七月三十一日
満期在職四ヶ年ト二ヶ月餘

同國人　スミス
機械工学教授
明治七年九月七日ヨリ雇入本年九月八日満期
在職四ヶ年間

米國人　パーリン
明治七年九月三十日ヨリ雇人本年九月廿九日
満期在職四ヶ年間

学第九百四十二号

右三名何レモ職務ニ勉励セルヲ以テ生徒ノ学業モ進歩セル儀ニ付解傭ノ際ニ当リ従来ノ勉励ヲ賞スル為メ適当ニ贈品無カル可カラスト存候ニ付テハ三氏共ニ代価百五拾円以内ヲ以テ物品ヲ購入シ贈與致度此段相伺候也

明治十二年六月十二日　東京大学三学部綜理加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

但賞與品取計ノ上金高品目等詳細可申出候事

明治十二年六月十七日

文部卿西郷従道之印

東京大學法理文学部實地修学旅行定則

第一條

實地修学ノ爲メ内外教員及ヒ生徒三里以上ノ場所ニ旅行スル時ハ甲号表面ノ通リ旅費ヲ支給スヘシ

第二條

出發ヨリ就業ノ場所ニ往復スルヲ並旅行トシ各里程ヲ算シ一日十里ヲ以テ定程トシ旅費日當ヲ給ス尤モ端里數一里未滿ハ切捨テ其以上ハ一日分ヲ給ス假令海路ヲ取ルト雖モ陸路ノ則ヲ以テス

但シ渡海ニアラザレハ到リ難キ場所ハ海路二十里ヲ陸路十里ト見做スヘシ

第三條

就業ノ場所片道六里以上ナレハ日當一日分ヲ給スト雖モ三里以上六里未滿ナレハ近方派出トシ往返ニテ日當一日分ヲ給ス泊スレハ滯留日當ヲ給ス

但シ出張ノ地ニ於テ奔走スル里數ハ算入セザルヘシ

第四條

渡船賃并ニ汽車賃ノ如キハ旅費日當ノ内ヲ以テ仕拂ハシム

第五條

途上病ニ罹リ事業ノ場所ニ到ラスシテ歸ルトキハ該地マテノ里數ニ應シテ往復旅費ヲ給シ重症ニテ滯在スレハ滯留日當ノミヲ給ス

第六條

事業ノ都合ニヨリ此地先ニ就業ノ地ヨリ起リテ各地ヲ巡回スルトキハ里程ヲ算セス日數ニ應シ並旅行日當ヲ給ス又甲ノ地ヨリ乙ノ地ヘ移ルトキ十里以上ノ場所ハ里程ヲ算シ日當ヲ給シ十里未滿ハ日數ヲ以テ給ス

第七條

滯留（出張シテ就業中ヲ云フ）日當ハ到着ノ翌日ヨリ其地出發ノ前日迄ノ日數ニ應シ之ヲ給ス

第八條

就業中旅宿ヨリ事業ノ場所マテ日々派出スル時旅費ヲ支給スルハ第三條ニ準ス

第九條

生徒旅費日當ハ規則ニ據リ給スト雖モ乙号表面ノ通リ學科ニ據リ定メタル額ヲ超ユヘカラス

第十條

旅費日當ハ發程前概算ヲ以テ假ニ渡置キ歸着ノ後決算ヲナサシムヘシ

第十一條

行旅ノ前發着ノ日ヲ内外敎員ハ記録掛ヘ生徒ハ寄宿掛ニ届出ツヘシ

第十二條

行旅中ハ毎日宿泊ノ地名行旅ノ道筋里程及ヒ並旅行滯留等ヲ帳簿ニ詳記シ置キ歸京ノ上用度掛ニ差出スヘシ

第十三條

本部用爲物運搬費ハ勿論總テ校費支出ニ係ル分ハ其品目數量ヲ明カニ認メサセ代價受取證書ヲ取リ歸京ノ節

本條ノ帳簿ト倶ニ用度掛ニ差出スヘシ

但シ私用為物運搬費ハ自費タルヘシ

第十四條

旅費支給生徒ハ卒業ノ後ケ二ヶ年以内ヨリ給費報謝金ノ外右支給旅費報謝トシテ毎月五円ツヽヲ納付スヘシ而シテ受ル所ノ全額ヲ納済スルノ時ニ終ル

第十五條

旅費支給生徒若シ廢疾ニ罹リ退學ヲ命シ或ハ死亡シ給費報謝ヲ免スモノニ限リ旅費報謝モ除スヘシト雖モ怠惰不行状或ハ校規ヲ犯ス等ノ故ヲ以テ退学ヲ命シ或ハ疾病其他事故アリテ自ラ請フテ退学スルトキハ一時ニ報謝セシム

乙号表ハ両経伺ニ及ハザルニ付畧之

甲号

月給高	三百五拾圓以上	三百五拾圓未満 三拾圓迄	三拾圓未満	生徒
等級	一等	二等	三等	四等
並旅行	四圓	三圓	壹円五拾銭	八拾銭
滞留	壹円	七拾銭	三拾五銭	三拾銭

甲第五十九号

英國人
グリグスビー
アトキンソン
スミス
米國人
パーソン

右四名ハ何レモ其本國ヨリ特ニ招聘致シ候者ニ
有之候處グリグスビー氏ハ去ル七月三十一日
アトキンソン、スミス両氏ハ同九月八日パーソ
ン氏ハ同月二十九日満期解傭帰國可致ニ付右
送別ノ為メ来ル十月四日饗應致シ度存候此段
御届候也

学第九百六十八号

明治十一年六月十九日

東京大学三学部綜理加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

明治十一年六月十九日

文部卿西郷従道之印

甲第六十一号

英國人
法学教授グリグスビー
本年七月三十一日満期

同
化学教授アトキンソン
本年九月八日満期

同
工学教授スミス
同断

豫備門訓導
英國人　エルリツト
本年八月三十一日満期

米國人
數学教授パーソン
本年九月二十九日満期

右五名約書ノ期限ニ而解雇可致筈ニ来ル七月
十一日ヨリ九月十日迄ニケ月間ハ其期休業
ニ相成候事ニ付定期試業ヲ畢リ右教師相済
候上ハ歸國被差許度段右五名ゟ願出候處其内
パーリン氏儀ハ尚休業済数日ヲ経タル〻ハ満期
ニ至ラスシテ得其次学年ニ始メヨリハ是迄同氏
学持ノ課業ハ代員ニ為学持ル事ニテ滞無差支
ワトモ業ヲ取ラシムル譯ニモ無之ワニ付同様
願ノ趣可聞届可申存ハ仍而右五名之者共外國ヨ
リ招聘セシモノニモ有之且假令満期迄滞在為
致候トモ何レモ授業スヘキ儀モ無之事ニテ寧
ロ即今ニ於テ満期迄ノ給料一時ニ交付致シ試
業相済ハ其願ニ適リ随意ニ歸國為致度此段

相伺候条至急裁可有之度候也

明治十一年六月日 一日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通
但シ追テ解傭之者帰国共期日更ニ可届出事
明治十一年六月廿六日

英國人

歴史学教授　サイル

妻　レベッカジエー、サイル

義女　ワシントン

右ハ本月十一日ヨリ夏期休業相成候ニ付同日ヨリ八月十日マテ往復一ヶ月間ノ期限ヲ以テ下野國日光山ニ在ル徳川氏宗廟ノ建築及該廟ニ蔵スル古器物等ヲ熟見シ當時ノ景況ヲ想像シ以テ歴史学上ノ参考ニ供シ度趣ヲ以テ一ヶ月

聞モ有之聴リノ事ニハ恭書ト家族二名同道致シ
学校願出ソレニ付テ休業中且学術上ニ関スル
義ニハ右御届申上候此段申進候也

明治十一年七月三日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

再伸旅行道筋ハ千住ヨリ陸羽道中宇都宮ヘ到リ
夫ヨリ順路今市通日光山ヘ到リソレヨリ直ニ帰
京ノ文旅行ノ義許可ニ相成候ハヽ急速外務省ニ向
照会旅行免状御請取成下度尤帰京ノ日限モ何レ迄
ニ也

伺之趣聞届候条出発往帰著共
更ニ可届出事
但旅行免状之儀ハ外務省ヨリ受取
此段可及回答候事

明治十一年七月四日

文部卿
西郷従道之印

甲第七十号

独逸人

採鑛學教授　子ットー

右休業中生徒ヲ率ヘ、摂州多田及但州生野銀山ニ到リ夫ヨリ伊豫國ニ渡リ松山近傍ノ鑛山ヲ一見シ尋テ肥前國高嶋ニ往キ該地ニ鑛山ニ到リ採鑛學ヲ實地ニ就キ教授セシムル為メニ来ル十日ヨリ往復二ヶ月間ノ期限ヲ以テ前書ノ地方ヲ經歴為致度候条右御差許被成事ニ候ハヽ至急外務省ヘ出張免状御受取方御申立有之度此段上申候也

明治十一年七月五日

東京大学三学部綜理

加藤弘之

一〇六九

文部卿西郷従道殿

再伸旅行道筋ハ左記之通ニ有之候
横濱出帆神戸ニ到リ其陸路ヨリ大坂ニ出テ但
州生野ニ到リ順路備前國岡山ヲ経テ伊豫國ニ
渡リ松山近傍ノ鑛山ニ到リ轉シテ備後國鞆ニ
往キ夫ヨリ長門國赤間関ヲ経テ肥前國長崎ニ
到リ歸路ハ長崎ヨリ海路神戸ニ来リ再ヒ大坂ニ出
テ東海道ヨリ歸京尤事宜ニ因リテハ神戸ヨリ直ニ
海路歸京ニ可致哉ニ候
右ハ本部ヨリ出張ヲ命スル所ノ道筋ニ有之候
然ルニ子ツトウ氏儀該地方経歴ヲ以テ目
貴ニテ此他山城大和和泉河内ノ四ヶ國及山陰
山陽南海西海ノ四道中採鑛學上ニ関スル事有
之地方ニモ立寄申度旨申出ツ得共豫メ其地名
ヲ一々記スル不能ルニ付右記載ノ分モ併テ出
張免状中ニ記入相成様致度此段モ添述ク也

書面旅行ノ儀聞届候条並路程帰着ノ上モ
期日可届出候且旅行免状交付候条帰
着候ハヽ文部省ヘ返付可為致候事

明治十一年七月九日

甲第六十九号

米國人

動物学及生理学教授　モールス

右夏期休業中動植物見出ヲ採集シ且該学ニ関
セル事ヲ研究シ生徒授業上ニ参考トナシ候
爲メ来ル十三日ヨリ往復五十日間ノ期限ヲ以テ
北海道ニ到リ度段願出ノ處右ハ学術上ニ係
リ有益ノ儀ニ付聞届中度此段奉伺候也右ニ差
許ノ儀ニ御決シ至急外務省ヘ旅行免状御
下付有之度此段上申候也

明治十一年七月　東京大学法理文三学部綜理加藤弘之

文部卿西郷従道殿

同伴旅行道筋ハ左ノ通ニ有之候

七月十三日横濱ヨリ出帆渡島國函館ヘ到リ上陸

夫ヨリ該地近傍ヲ経廻シ尋テ後志膽振両國ノ

各郡ヲ巡歴シ石狩國札幌ニ到ル帰途ハ順路函

館ニ帰リ夫ヨリ海路横濱ニ来リ帰京

書面旅行之儀伺之通聞届候条

発程帰着共期日可届出候且旅

行免状別紙交付候条帰着

候ハヽ文部省ヘ返付可致候事

明治十一年七月九日

甲第五十一号

豫備門訓導米國人スコット氏儀近頃身体稍疲労致シ候ニ付保養ノ為メ看護ノ家族召連休業中ニ付来ル十二日ヨリ九月一日迄往復凡一ヶ月ト二十一日ヲ期限トシ以テ相州箱根温泉ヘ入浴シ且其近傍ヲ徜徉致シ度段願出ノ所右ハ全ク病気保養ノ為メニテ事実不得止儀ニモ有之候ニ付御聞届有之度此段及御伺候条御許可相成候ハヽ旅行免状外務省ヨリ御請取御下附有之度候也

東京大学三学部綜理

明治十一年七月廿八日

加藤弘之

文部卿西郷従道殿

乙第千百四号

一〇八九

旅行人名

エム エム スコツト

イー エフ スコツト

外ニ 小児 二人

旅行道筋

東京出発東海道通相州箱根到ル帰路ハ同断

但シ起程御届候条並帰程ハ着

其期日更ニ可届出事

但旅行免状之儀ハ外務省ヨリ受領次第可交付候事

明治十一年七月八日

文部省

送ノ印

甲第七十三号

豫備門訓導

英国人 フヱントン

右ハ来ル十三日ヨリ往復五十日間ノ期限ヲ以テ北海道ニ到リ学術上ニ関スル事ヲ研究シ来リ生徒授業上ノ参考ニ供シ度旨願出候ニ付右ハ学術研究ノ儀ニモ有之候間御聞届相成度尤右者何分ノ御許可ノ上ハ其筋ニ於テハ来ル十二日中ニ旅行免状御下附有之度此段上申候也

明治十二年七月七日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

第千百二十三号

尚伸旅行道筋ハ横浜ヨリ舟行渡島国函館ニ至リ夫
ヨリ該地近傍ヲ経歴シ尋テ後志膽振両国ヲ経テ石狩国
札幌ヘ到リ帰路ハ札幌ヨリ順路函館ニ帰リ夫ヨリ
海路横浜ヘ来リ帰京

付テ題軍届ノ案並発程帰着共期日更ニ可
届出ノ事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第可交付ノ事

明治十一年七月十日

甲第七十六号

予備門訓導英国人ボートト氏学術研究ノ為メ
来ル十六日ヨリ往復五十日間ヲ見込ヲ以テ北
海道地方ヲ旅行致度旨願出候右ハ職務ニ関
セル事ヲ取調ル事ニテ自ツカラ授業上ニ参酌
ニモ可相成儀ト存候ニ付御聞届相成度此段相伺
候也

但シ右允許相成義ニ候ハヽ至急旅行免状給
学領ニ以テ下附有之度候也

明治十一年七月十日

東京大学法理文三学部綜理

加藤弘之

文部卿西郷従道殿

旅行道聞

学第千百三十八号

一一七四

東京出發東海道通リ去ル廿日箱根ニ到リ夫ヨリ
富士山麓ヲ通キ甲斐國山梨郡ニ出テ信州浅間
山下ヲ回リ中仙道ヨリ順路下野國日光山ニ到
リ其近傍ヲ経廻シ陸羽道中ヲ経テ歸京

伺之趣聞届候条出發雑費共聊
更ニ可相伺候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領可致
可有之候事

明治十一年七月十二日

甲第七拾七号

全石地質学教授
獨逸人 ナウマン

右來ル十六日ヨリ二十日間ノ期限ヲ以テ
生徒ヲ率ヘ武蔵相模甲斐信濃四國ヲ巡廻セシメ
ノ地質ヲ調査シ且ツ実地ニ就キ生徒ヲ教授
セシムル為メニ派出致シ度此段相伺候条右
ヲ委詳ノ儀ニヨリテ至急外務省ヘ照會
該地方ヘノ旅行免状御下附有之度
此段上申候也

明治十一年七月十日

東京大学法理文三学部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

第六千五百三十九号

再伸旅行道筋ハ左ニ通ニ有之候
中仙道通秩父郡ニ到リ夫ヨリ同國ニ各
郡ヲ巡廻シ尋テ信濃甲斐両國ニ各郡ヲ経歴
シテ相模國ニ到リ是又同様各郡ヲ経歴シ夫
ヨリ轉シテ中仙道ニ出テ順路帰京

伺之趣聞届候條旅程帰着共期日更ニ可
届出候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領可致可有之

明治十一年七月十二日

文部省

甲第七十九号

佛國人
數學教授　マンジヨウ

右休業中ニ付来ル十八日出立往後一
ヶ月半ニ期限ヲ以テ測量術研究ノ為
メ駿河國富士山并伊豆國熱海ニ往キ
右両地近傍ヲ経歴致シ度旨願出候ニ
付而ハ学術研究之儀ニモ有之ニ付曽テ
届中學此者ハ何以蓋法許可於生徒ニ
以ノ旅行免状外務省ヨリ受領ノ下
度有之候也

明治十一年七月十二日

東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

旅行道筋

東海道通順路駿河国富士山ニ到リ夫ヨリ順路伊豆国熱海ニ往キ帰路東海道通

伺之趣聞届候条帰着共期日要可届出事

但旅行免状ハ外務省ヨリ受領可致事

明治十一年七月十三日

文部卿西郷従道之印

下第百二十六号

従来本部ニ於テ定ムル学科課程中ニ載スル全課目ヲ履践スヘキ者ニアラサレハ入学ヲ許サヽル成規ニシテ當内外生徒中或ハ事故アリテ全課目ヲ履践スル能ハスト雖モ一二ノ課目ノミ専修ヲ請求志望ノ者有之或ハ全課目ヲ履践シ得ヘキ能力ナキ者若モ有之ニ付右等ノ生徒ニシテ年齢既ニ丁年ニ達シタル者ニ限リ願ニ寄リ其学力試査ノ上一二ノ課目ヲ専修スルヲ許シ右様ノ如クセハ本部ノ教導会ヘ全課目ヲ履行シ得ル者ノミニ止ラス又傍ラ衆人ニ

学第千四百五十九号

一一

厚キヲ得ヘシト存ス但シ確定ノ全課目ヲ履践セサル者ハ固ヨリ学資ヲ給セス又卒業証書ヲモ与ヘサル儀ト有之候条此段相伺候至急裁可相成度候也

明治十一年七月十二日

東京大学法理文三学部綜理　加藤弘之

文部卿西郷従道殿

再伸本文学科課程トアルハ譬ヘハ化学科工学科等ノ課程ヲ指シ一二課目トアルハ化学科ニテハ有機化学製造化学等ノ如キヲ云ヒ又工学科ニテハ物質強弱論陸地測量学等ノ如キヲ云フ儀ニ有之候也

伺之通

明治十一年九月廿五日

文部卿西郷従道之印

甲第八十号

仏国人

高等物理学教授

デーブウスキー

右学術研究ノ為メ来月廿日出立往復
四十八日ノ期限ヲ以西京ヘ到リ夫
ヨリ順路大坂ヲ経テ神戸ヘ到リ申度
旨願出候処右ハ学術上ニ関シ候義ニ
付御雇中ニ付此旨相伺候処先可然義
ニ付以テ旅行免状外務省ヨリ御受領
被下候方取計リ也

学第千七十号

東京大学三学部綜理
加藤弘之
明治十一年七月十三日
文部卿西郷従道殿

旅行道筋左ノ通
東海道通西京ニ到リ夫ヨリ大坂ヲ経テ神戸ニ往キ順路西京[illegible]ニ廻リテハ往復共中仙道ヲ経過可致候

伺之趣聞届候條出発帰着共期日更ニ可届出事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領スヘキ旨可交付候事
明治十一年七月十六日

二百廿四号

第和八十八号

独國人

数學教授　ベルリン

右来ル廿四日ヨリ往復一ケ月間ヲ期限トシ摂津河内山城近江四ケ國ヲ経廻シ學術上ニ関スル事ヲ取調度段願出候ニ付右ハ許可相成義ニ候ハヽ旅行免状御下付有之度此段及御願候也

東京大學法理文三學部綜理

明治十一年七月十九日　加藤弘之

文部卿西郷従道殿

再伸旅行之儀ハ往復共東海道通行之処却而困リ候ハヽ横濱ヨリ海路神戸ヘ到

甲第百四号

本部理学教授仏国人ベルソン氏学術研究ノ為メ明後廿一日ヨリ往復八日間東海道ヲ経テ相州三浦三崎ヨリ江ノ島辺ヲ回歴致度旨申出候ニ付而ハ自ラ免状御渡ノ日限之定規モ有之ツ寄然書学科並至急取調度義有之趣事実不得止儀ニ付右御許可相成候ニ有之候ハヽ可成丈明日日中右免状御渡相成度此段申進候也

明治十二年八月十九日

東京大学法理文三学部綜理　加藤弘之

文部少輔西郷従道殿

学第千三百廿二号

申出之趣官房来務ノ程伺着其所
届出ハ事
但従前免状之儀ハ外務省ヨリ受領可致其分
取計ノ事

明治十一年八月十一日

右第三十五号

明治八年七月二日雇入以来三ヶ年
二ヶ月餘在職月給三十八円

制煉方
升岡大造

明治七年六月三十日雇入以来四ヶ年
二ヶ月餘在職月給拾四円

同
細川貫一

明治七年三月廿八日雇入以来四ヶ年
五ヶ月餘在職月給拾貳円

同
立野粂太

右三名今回依願解雇致シ度處何レモ
雇入以来兼テ書之年限中職務勉励用辨
相立候者共ニ付其従来之勉励ヲ賞ス
ル為メ補助金之内ヲ升岡大造ヘ金五
拾七円細川貫一ヘ金貳拾八円立野粂

内第百三十九号

者ハ金貳拾四圓丈ケ致度此段及伺候
也

明治十一年九月十一日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

明治十一年九月十二日

米國人メンデンホール氏先般該國ヨ
リ給料メキシコ元三百五拾元ニ而雇
入候條約ニ而當學生監督且實田種々
邦ニ而假條約相托シ右締結済ニ而此際
到着ニ相成處近来金貨トメキシコ銀トノ
差莫大ニ相成候故従来他ノ教師同様ノ
金貨ニテ三百五拾圓ヲ請求致シ者ニ
比スレハ其損益甚不勘然ルニ學力ニ
於テ優劣無之諸教師ニシテ右ノ如キ
事不幸ニ到有之候モ甚不都合ニ至リ
且今般右給料ニ外更ニ貿易銀貳拾圓
ヲ増加シ以来條約致度此段相伺候ハ果

急速許可有之度ク也

明治十一年九月三十日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

但増給並條約取結候ハヽ條約書相添可届出候事

明治十一年十月一日

文部卿西郷従道之印

造化学等ノ如キヲ云ヒ又工学科ニテハ物質強弱論陸地測量等ノ如キヲ云フナドニ有之ク也

伺之通

明治十一年九月廿五日

文部卿西郷従道之印

甲第百十九号

理学部教授ウヰーダル氏満期ニ付近日帰国可致旨先般法学部教授ターリング氏文学部教授フェチロサ氏理学部教授ユーウィング氏メンデンホール氏到着致し候ニ付来ル十二日午後六時三十分ヨリ上野精養軒ニ於テ饗応致し度此段相伺候条至急裁可有之度也

明治十二年十月七日

東京大学三学部綜理

加藤弘之

文部卿西郷従道殿

第九十五号

三十五号

一〇六六

伺ノ通

明治十一年十月八日

甲第四百二十三号

理学部教授ウヰーグル氏来ル廿六日
而満期雇止相成候儀ニ有之候處同人
ハ去ル明治四年三月十二日米国ヨリ
大学南校ニ雇入候以来今年今月
迄ニ七ヶ年七ヶ月餘ニ相成候儀ニ有
之其間教導上懇篤勉励尋常ナラス之
レカ為メ生徒ニ進歩亦顕ル顕レ候儀
ニ而本部ノ為メ功績不少儀ニ付今般
帰米ノ際ニ為賞典金四百圓ヲ贈与致
度此段及御伺候条宜敷御裁可有之候也

学第千五百五十九号

十一年十月九日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

但書無用ニ候ニ付其旨可申出候事

明治十一年十月十一日

理学部教授独乙人ネットー氏儀本月十九日満期ニ有之候處同人ハ学力有之且授業上懇切ナルニ因リ従テ生徒ノ業モ進歩シ候ニ付今回更ニ廿日ヨリ向二ヶ年間雇継可申存候然ル處是迄給料ハ金貨ヲ以テ渡来リ雇継候ニ付テモ貿易銀ヲ以テスルトキハ従来金貨ト貿易銀トノ差異大ニ相成ル上ハ従来他教師等ノ金貨ニ而三百五拾円ヲ受取居候者ニ比スレハ其損益不少其学力ニ於テ優劣無之該教師ニ至テ右ノ如ク幸不幸ノ別アルハ甚タ不都合

ヒ至ニ付テ彼雇継クニモ猶ホ給料ニ
貳拾円ヲ増加シ貿易銀三百七拾円ヲ
以テ雇継申度ニ付至急裁可有之度候
也

明治十一年十月十五日

東京大学三学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

申出之通

但雇継約定ノ儀ハ條約書写添可差出事

明治十一年十月廿三日

文部卿西郷従道之印

甲第五百三十三号

本部雇外国教員ヲ金三百五拾圓以下
ニ月給ヲ以雇入ノ義ハ本部ノ権限内
ニ有之ノ處先般通貨或貿易銀ヲ以テ
給料渡ノ義ニ付而内達有之ニ付而ハ現
今給料金貨三百五拾圓ハ教授ト今後
雇継ノ節ハ貿易銀ニ百七拾圓ノ教授ニ改
メ又新規雇ノ分モ並ニ教授ハ同様貿
易銀三百七拾圓程ニ額定致度ツ旨本
部事務章程中並欽ニ三条ハ外国教員
ニ四百圓以上ノ月給ヲ与フル事ト改
正有之度又外国教員饗応ノ義従来毎
年一二回慰労ノ為メニ致シ候分ハ兼

学第八十六 百九十九号

テ経伺ヲ要セサル事ニシテ定又教員来
聘航等ニ当臨時ニ繰応シテ都度経伺
ヲ要スル事ニ之定置ハ候共右繰ニ付
ハ両種類共自今経伺ヲ要セサル事ト
シ定章程下欵中左ノ一項ヲ加ヘ度ハ
外国教員ヲ聘雇スル事
右両條当伺ノ趣早速裁可有之度存候也
明治十一年十月廿二日
東京大学法理文三学部綜理 加藤弘之
文部卿西郷従道殿

書面章程中改正之儀ハ当日相達候事
明治十一年十一月四日

理学部教授仏国人マンジヨーデーブスキー
両氏是迄月給三百五拾圓ヲ金貨ニテ相渡
来候処先般通貨或ハ貿易銀ヲ以テ給料渡
シ方之通達有之候ニ付右両名趣ニ基キ本月
分ヨリ両氏ノ給料ハ貿易銀ヲ以交付可致處
当節未金貨ト銀貨トノ差異莫大ニ有之候ノ上ヘ
他教授等之金貨ニテ三百五拾圓当雇候ノ者
ニ比スレハ甚損益不少且従来金貨ニテ請雇
居ヲ時ニ較スレハ実際ニ於テハ其給料減少
セシ姿ニ相当リ甚ダ不都合之至ニ付両氏
共本月一日ヨリ右給料之外更ニ貳拾圓ヲ
増加シ一ケ月貿易銀三百七拾圓交付致度

此段相伺候条至急許可有之度候也

明治十一年十月廿五日

東京大学法理文学部綜理 加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通

但増給候ハヽ締約書可差出事

明治十一年十月廿六日

文部卿 西郷従道之印

甲第百四十五号

豫備門訓導

英国人 フェントン

同 ポート

右両名本月廿一日ヨリ三日迄往復三日間ヲ以テ千葉県下々総国行徳ニ到リ同所ヨリ四方三十里以内ノ山野ヲ廻歴シ虫類ヲ獲集シテ生徒授業上ノ参考ニ供シ度段申出候處該日一二両日ハ生徒小試験ニテ両氏共授業無之且廿三日ハ新嘗祭ニテ休業ニ有之ニ付右等願出申存候ニ付右ハ許可可相成儀ニ

学第千七百六十三号

東京大學三學部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通
明治十一年十二月十九日

文部卿西郷従道之印

石第五十号

明治九年三月廿二日ヨリ十一年十二月廿八日マテ
在職二ヶ年ト八ヶ月餘 月給金拾円
理學部教場助手補 大澤謙之郎

明治十年十月廿一日ヨリ十一年十二月廿一日マテ
在職一ヶ年ト一ヶ月餘 月給金八円
記録掛 高橋安宅

右両名儀這般依願解傭候處前書記載ノ年間職務勉励候者ニ有之其従来ノ勉励ヲ賞スル為メ補助金之内ヨリ大澤謙之郎ヘ金拾円高橋安宅ヘ金四円交付致度此段相伺候也

明治十一年十二月三日

東京大学法理文三学部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

伺之通
明治十一年十二月六日

英國人
ターリング

右者学術研究ノ為メ当冬期休業中来ル廿五日ヨリ往復十四日間ヲ期限トシ以テ武蔵大宮ヨリ上野妙義山ニ到リ夫ヨリ甲州ニ入リ御嶽山ニ登リ尋テ信州ニ出テ諏訪湖辺ヲ経歴致度段願出候ニ付而ハ学術研究ノ為ニモ有之候間右許可相成候ハヽ旅行免状御下領之上同人ヘ交付有之度此段相伺候也

明治十一年十二月十九日

東京大学三学部綜理
加藤弘之
文部卿西郷従道殿

本件旅行道筋左記ノ通ニ有之
中仙道通リ大宮ニ到リ夫ヨリ順路妙義山ニ
往キ轉シテ甲州路ニ出テ御嶽山ニ登リ尋テ
順路信州諏訪湖ニ到リ同所ヨリ帰京但シ都合
ニ因リテハ甲州街道ヲ経テ帰京

伺之趣聞届候条発程帰着共期
日更ニ可届出候事

但旅行ノ免状ハ外務省ヨリ受領ノ筈ニ候
[illegible]
明治十一年十二月廿日

文部卿西郷従道之印

甲第百五十八号

英國人

豫備門訓導　フェントン

右ハ冬期休業中ニ於テ学術研究ノ為メ
来ル二十六日發足往復十三日ノ期
限ヲ以テ武藏國大宮及信濃國諏訪湖
ニ至リ其近傍ヲ廻歴シ度旨願出
候ニ付右許可相成度就テハ旅行免
状ノ儀外務省ヘ御照会有之度此段相伺
候也

明治十一年十二月十九日

学第千九百二十四号

東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

本件旅行道路左記之通ニ有之候
東京発足中仙道通高崎ニ至リ夫ヨリ順路
川越ヲ経テ信濃路ニ入リ同路帰京

伺之趣聞届候條発程帰着并期日共ニ
可届出候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領[illegible]事

明治十一年十二月廿一日

甲第五十九号

仏人
マンジヨウ

右ハ傭入賀斯病ニ付来ル廿七日ヨリ往
復十二日間日限ヲ以豆州熱海ニ到
リ入浴ニ且傍ラ学術研究ノ為メ夫ヨ
リ駿州ニ入リ富士山麓ヲ経歴致度旨
願出ノ事

仏人
ボーブロスキー

右ハ来ル廿七日ヨリ往復十二日間ニ

甲第千八百二十三号

二一二七

限リ以テ右ヘ到リ其各地方ヲ経歴シ
夫ヨリ駿州ニ入リ富士山麓ヲ経歴イ
タシ度旨御届申候事

右書ニ通リ九州ヨリ外一人召願出候
ニ付テハ冬期休業中ヘ日本ニ於テ上申病
治療及学術研究ヲ為シ候者ニ付官名
許可相成事ニツリニ旅行免状御下領
ミ以文書相添此段相伺候也

明治十一年十二月十九日
東京大学三学部綜理
加藤弘之

文部卿西郷従道殿

再伸旅行道筋ハ左記ニ通ニ有之候
西氏共陸奥東海道通

伺之通聞届候条尤該程帰着其期日更ニ
可届出候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領可致可差出候事

明治十一年十二月廿一日

文部卿西郷従道之印

甲第百六十一号

理学部教授獨逸人ナウマン氏ヨリ遠州下
総国椋見川ニ於テ地ニ在ル大魚ノ古骨ヲ
堀出シ細ニ之ヲ一見ニ為シ来ル廿六日出
発往復一ト月ノ期ニ該地ヘ罷越度旨
申出ル右ハ古生物学上ニ参考トモ
可相成者ニ付実見為致候場合本部ニ
為メニモ相成候事ニ付寺廟中寄集
右許可相成候ハヽ旅行免状御交
付ノ上御交付有之度此段相伺候也

東京大学三学部綜理

加藤弘之

文部卿西郷従道殿

再伴旅行道筋ハ左記之通ニ有之候
東京ヲ発シ順路指見川ヲ到リ帰路
同断

伺之趣聞届候條発程並着京期日ヲ可
届出候事
但旅行免状ハ外務省ヨリ受領次第可交付
候事

明治十一年十二月廿四日

文部卿西郷従道之印

丙第五十六号

予備門元雇教員
月給金九拾円　江木高遠

右ハ予テ依願解雇ノ處明治十年二月
十六日雇入以来壹ヶ年十ヶ月間在職
職務勉励ノ右ニ付其従来ノ勉励ヲ賞
スル為メ補助金ノ内ヨリ四拾五円交
付致度此段相伺候也

明治十一年十二月廿日　東京大学三学部綜理加藤弘之

文部卿西郷従道殿

丙第百九十八号

伺之通

明治十一年十二月廿五日

文部大輔田中不二麿之印